

羅針盤			方策	自己評価①	
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	改善策
Ⅱ 確かな学力	4 学校の授業は、わかる授業と なっていますか。	④「授業がわかる」と答える児童が85%以上である。	・ねらいを明確にした学習展開、個の実態に応じた授業支援を行うとともに、学習のまとめと「ふりかえり」を徹底し、その時間の学習内容を身につけさせる。	A	継続して取り組む
	5 ICT機器を活用した、効果的な授業づくりを行っていますか。	⑤タブレットを活用した授業が分かりやすいと答える児童が、85%以上である。	・タブレットを活用した学習課題や資料の可視化、一人ひとりの思考の交流と共有を通して、考えを深める授業の展開に努める。	A	継続して取り組む
	6 学習の基礎・基本が確実に身についていますか。	⑥学習の基礎的基本的な内容を身につけていると答える保護者が85%以上である。	・単元テスト達成率の目標を事前に設定し、身につけさせる学習内容を確認しながら児童への指導を行う。	A	継続して取り組む
	7 児童の学力や努力を適切に評価し、その結果を生かしていますか。	⑦指導と評価の一体化を図り、適切な指導・支援の充実に努めていると答える職員が85%以上である。	・補助簿等を作成して学習活動を適切に評価し、個の支援に役立てるとともに、評価を次の学習指導、支援へとつなげられるようにする。	A	継続して取り組む
	8 家庭で学習に取り組む習慣が児童に育っていますか。	⑧家庭で学習に取り組んでいる児童が85%以上である。	・宿題の工夫やデジタルドリルの活用により、家庭学習の習慣化を図る。	A	継続して取り組む
	9 すすんで英語に取り組む児童が育っていますか。	⑨「英語の授業に進んで取り組んでいる」と答える児童が85%以上である。	・児童が楽しく活動し、親しみながら英語に学習に取り組めるような指導計画を作成し、授業実践する。	B	児童にとって楽しく、親しみやすい歌、チャンツを授業で積極的に活用します。また、英語を使って交流する活動を工夫することで、楽しみながら自然と英語が身に付くようにします。